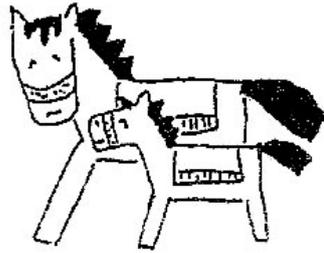


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

令和2年 7月 NO.308



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		7月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
7月 2日 16日	木	こうさぎおはなし会 15:30～16:30	絵本や手あそびなど楽しいことがいっぱい！ どうぞおいで下さい。	
7月 3日 17日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	うたうたいを始めます。高齢の方も声が出る ようになりますので、一緒にうたいましょう。	
7月 11日 18日	土	体験保育 10:00～12:00	3才未満のこどもたちと一緒に遊びましょう。	
7月 18日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	未完成の花カゴを仕上げますので、 お持ちください。	
7月 30日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	関さんにスマホやインターネット依存の 現状を話していただき、賢く利用する 方法をお聞きします。	

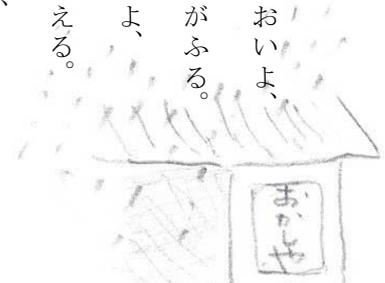
・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みすゞ全集⑤
「さみしい王女・上」より

文字焼き
文字焼きの焼けるにおいよ、
雨がふる、
こんこんこまかな雨がふる。
駄菓子屋の奥の暗さよ、
ぽちりと、
あかい煙草の火がみえる。
五六人そこらの辻で、
くちぐちに、
さよならしてる声がする。
文字焼きの焼けるにおいよ、
雨がふる、
こんこんこまかな雨がふる。



☆今月の内容 — 「や・き・め・しは 心がけたい 頭文字」
「怒るより 叱ることの 難しさ」

や・き・め・しは 心がけたい 頭文字

あきた小児科クリニック 秋田 裕司

夫婦の仲がぎくしゃくする原因の一つに、相手に対して100%のことを期待するからだと言われます。相手の良さも悪さも長所も短所も、お互い様と受け入れることで居心地の良い関係につながっていくようです。夫婦関係は平等に考えやすいのですが、これが親子となると、どうしても親の立場が強くなってしまいます。親の希望や理想、主張などを子どもに押し付けたり、完璧さを求めたりしがちです。その結果、一方通行の親子関係に陥ってしまったりします。

風通しの良い親子のコミュニケーションを育んでいくためには、信頼関係の構築とともに、一方通行ではない人間関係が望まれます。そのためには、『約束を守る（子どもとの）』『禁止的な言葉は控えめにする』『命令的、威圧的な関わり方も控えめに』『叱ってばかりではなくほめる』といったポイントがあげられると思います。「それぞれの頭文字をとって『や・き・め・し』ですよ」とお話しすることもあります。子どもにとっての親は、世の中の誰よりも一番安心できて、いざという時にも信頼できる“港”や“防波堤”であることが望ましく、そうした環境でこそ子どもは存分に成長して船出していけるものです。

その反対に、『約束を守ってくれない』『禁止的な言葉が多い（ダメとかやめなさいとか）』『命令的、抑圧的な接し方ばかり』『叱ってばかりでほめてくれない』…もし自分がこんな関わり方をされたら、と考えてみてください。「どうせうちの親に言ってもわかってくれない」「どうせまともに話し合ってくれない」「どうせ自分は期待されてないし…」ついついそう考えてしまっても不思議ではありません。過干渉や抑圧的育児では一方的なコミュニケーション

不足になってしまい、親子の間に高い壁を造るだけです。とくに思春期に入っているお子さんはその傾向が強くなる場合があります。

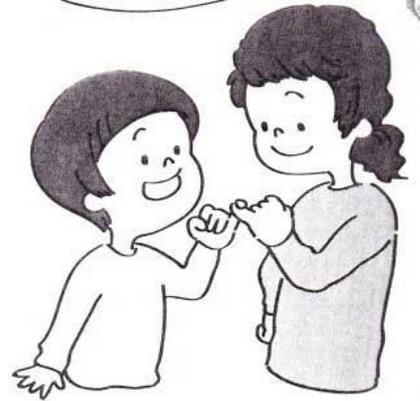
や：約束を守る

き：禁止的な言葉は控えめに

め：命令的、抑圧的な接し方も控えめに

し：叱ってばかりではなくほめる

といった『や・き・め・し対応』をちょっとやってみましょう。小学生や中学生からでもけっして遅くはないと思います。親が変われば子どもの態度が変わる…ことを信じて、ちょっと続けてみませんか？



怒るより 叱ることの 難しさ

子どもが幼い頃の子育てを思い出してみると、早く寝なさい、おかずはみんな食べなさい、おもちゃを片づけなさい、ちゃんと挨拶しなさいなどよく怒っていました。小学生になると、もっと早く起きなさい、宿題や連絡帳を忘れるな、テレビの見過ぎだ、遊びから帰ってくるのが遅すぎる、ゲームのし過ぎだなどと、やっぱりよく怒っていました。

中学生や高校生ともなると怒る内容も当然変わってきます。親が怒っているうちはまだいいのですが、怒る気にもならないほど溝ができることもありました。ただ、よくよく思い出してみると、勢いに任せて怒っても効果がない場合がほとんどでした。育児書などでよく書かれているように、「怒る」のではなくて「叱る」べきだったのでしょうが、マニュアル通りにうまくいけば子育ては苦労しません。

言葉の印象で考えると、「怒る」のは親の感情のままに怒りを子どもにぶつけている時のように思います。これに対して、「叱る」は子どものことを考えて諭しているようなイメージがあります。言い換えれば「怒る」は親の立場や感情を中心とした行動であり、「叱る」は子どもの立場や状況も考えていると言えると思います。自分が講演する時などは、

『お：怒るより 叱ることの 難しさ』

の続編として、

『か：感情で 怒ってしまえば 親の負け』

という標語を使ったこともありました。

怒っている時には子どものできていない部分を探して、そのできない理由を追求しようとしていることが多いと思います。一方、落ち着いて叱っている時には、できてない部分を叱るだけでなく、じゃあどうすればできるようになるのかを親子で考える余裕があるように思います。具体的にどうすればよい方向に持って行けるのか、それを考えて話し合うことが「叱る」ということだと考えています。親子で過ごす時間が長い日ほど、親子で過ごす時間が多い人ほど、怒らざるを得ない場面によく遭遇するものですが、そのうちの1回でも2回でも、「怒る」のではなく「叱る」目線で接することができればいいのではないのでしょうか。



著書：育児の悩みが軽くなるヒント集
「子育てかるた」より